児童発達支援事業所における自己評価結果（公

討議年月日：令和　3年　3月　2日～5日

公表：令和　3　年　3月　7日

事業所名　子ども支援室　えがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7		一対一以上の配置を心がけている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		空間をうまく使う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	2	食事と政策は同じテーブルなので、消毒等をする。 感染症予防で換気が必用なため窓を開けているが室温が維持できない。夏は扇風機を置くなどの工夫をした。来年度も感染症予防のため必要	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	朝の打ち合わせ参加者から提供時間勤務パートに伝達	参加することで意見も出るパートの声をどこまで拾えるか工夫
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	保護者からの声は共有できていると感じる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		一時的な評価でなく、年間の目標としていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	第三者評価機関はわからない	相談員や関係機関等に来所していただくことで意見をいただく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		研修時間が休日になったり時間外になってしまうため、DVDなど購入学んでいく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1		どの職員もアセスメントをとれるようにしてはどうか？ 心理士の検査報告を行う
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	家庭での取り組みについても計画立てるとよいのではないか？	事業所のみでの支援ではなく家庭保護者の支援力を高めていくにはどうしていったらよいか？取り組める保護者や環境はみな違うので負担にならないように工夫していく必要はある
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1		個々の課題を取り組みごとにつくり具体的な支援をより分かりやすく提示する
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2	進行者が行っている。	児童、放課後のチーム分けをする。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	個々に合わせてもう少し個別の取り組みができるとよいと思う。	児童は体つくりも大きな課題である時間の工夫をし取り組んでいく。 個別のプログラムを職員が把握できるために、個々に課題取り組みを作成
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	1		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		参加していない職員には伝える。	時間を工夫し、行えるようにする。送迎を考えていくことで、話し合いの時間を確保
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	送迎等に出ると話し合いができないため翌日になることが多い。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			記録、課題表に記入する時間の確保することで、すべての職員が取り組める 課題表に記入していくことで振り返りができるため支援の達成、継続、変更するかが短期間で見直しできる
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1	支援がうまくいかないときに、振り返り支援を考える。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		相談員や保健センターの方が事業所に来ているので情報を共有しやすい	担当者が来所していただけるとその場で共有できるので、可能ならば来所もしていただけるとよい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2	医療的ケア児は利用していないが、他機関との連携では保護者が内容を伝えてくれている。 コロナ感染の心配で、訓練などの同行ができなかった。	重心というくくりではなく利用者すべてに必要であると職員で共通認識
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			移行支援のみでなく日ごろから連携を強化していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			行政からの研修の案内などには積極的に参加をしていく。 職員が参加できる環境を作る。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3	コロナ感染のことがあり積極的にはできていない。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	3	コロナで開催が中止、開催時は参加している。参加中の療育体制が手薄にならないように	子ども連絡会に参加をしているが連絡会の中身を実のあるものになるように声を上げていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6	1	ペアトレの勉強会は行った。が保護者にはまだ提供していない	企画をしていく。その時は一人ではできないので体制を考える。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			来年度の変更点を職員、保護者ともに知る必要がある。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	父母の会は必要なのか？	保護者にアンケートを取ってみるのもよいかもしれない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		対応できている。 相談を受けたときに対応、内容が返せているか不安になる。	職員個人の見解ではなく相談力の強化力
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2	通信を考えていくのはどうか？	ホームページや通信を作る時間の確保、配置に影響が出ないように取り組む
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		言葉のない子等むつかしさを感じるが寄り添っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	コロナで地域活動は行えなかった。散歩時に挨拶を心がけている。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	コロナ感染症のケースが多かった。	計画を立てて取り組んでいく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1		フェイスシート、緊急連絡等で把握しているが再度確認 新年度に記入していただく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			職員間で「ヒヤリハット記入」と声掛けができるように、共有していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		研修に積極的に参加をし共通認識としていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1		

〇この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。